

海外渡航者のためのワクチン <乳児用>

日本で接種可能なワクチンをまずは生後2ヶ月より定期接種、任意接種ともに順に接種する。

1、ポリオ、小児麻痺、急性灰白髄炎 [poliomyelitis、OPV(Sabin)、IPV(Salk)]

生ポリオ接種をしている場合、日本では2回しか接種していないので、ポリオ流行地へ渡航なら3回目さらに場合によっては4回目の追加接種(小・中学生や高校生の一部)が必要
流行地でなくても入学の際に要求されることもある
不活化ポリオで接種の場合は日本での接種状況と渡航先の状況で追加接種を決める
海外では不活化ポリオは4-5回接種する

2、DPT[ジフテリア:Diphtheria、破傷風:Tetanus、百日咳:pertussis]

小学校入学前(4歳以上)に5回目の追加接種が必要
途上国では1期追加後5年経過していれば5回目接種

3、麻疹(Measles)、風疹(Rubella)、おたふくかぜ(Mumps)

水痘(Varicella、chicken-pox)
1歳以上でいずれのワクチンも2回接種する国が多い
海外ではMMRワクチンとして接種することが多い
1回のみ接種又は未接種の場合は抗体検査で陽性証明を記載する

4、BCG

途上国は結核患者が多いので優先的に接種
海外のBCGは副反応が強いのでできるだけ日本で接種する
海外で保育園に入園するときは先進国では入園1年以内のツベリクリン反応の証明が必要。

5、日本脳炎

アジア地域では必要
生後6ヶ月以降は定期接種で接種できる
1-4週間隔で2回接種を約1年(6ヶ月~2年)で追加接種

6、A型肝炎[Hepatitis type-A]

途上国では感染の機会が多いので3歳以上は積極的に接種する
2-4週間隔で2回接種後約6ヶ月(3ヶ月~2年)に追加接種する

7、B型肝炎[Hepatitis type-B]

保育園、小学校に入学する際は接種証明が必要の事が多い
多くの国は定期接種
4週間間隔で2回接種し、約6ヵ月(3ヵ月~2年)後に追加接種する

8、狂犬病[Rabies]

ワクチンが入手困難な場合は接種 詳細は別紙参照

9、黄熱[Yellow Fever]

アフリカや南米の一部の国で必要 入国10日前にまでに接種し10年は有効
名古屋検疫所(052-661-4131;木曜日午後)セントレア(0569-38-8194;2,4,火曜日午後)
で接種できる 1歳以上が対象

だいでうクリニック予防接種センター

TEL:052-611-8650、FAX:052-611-8651